

ラジオ雑感

札幌市医師会
曾根眼科

そね あきら
曾根 聡

ラジオから流れてきたクイーンやカーペンターズの曲にワクワクした小さい頃の記憶。そして徐々に深夜番組などを聴くようになったりと、当時ラジオは必需品だった。

お年玉を持って初売りに行きラジカセを買ったのは中学生の頃だ。ソニー製だった。

開業してからラジオをまた聴き始めた。昼休みにテレビはないのでスマホでラジオだ。音は良いがわずかなタイムラグがあり、現在進行形という感じは少し薄い、それでも非常に便利だ。さらに、エリアフリーやタイムフリーなるものも登場し、札幌で九州や関東の放送も聴けるようになり、しかも聴き逃しに対応している。故郷の放送局に合わせると何か懐かしい感じがするし、音楽番組は関東が多くベストテン的なものは楽しい。

昨年のコロナ禍にネットラジオ録音X2というアプリ(約3,000円)を見つけた。スマホのエリアフリーを契約(月385円)していると全国のスマホ対応ラジオ番組が1週間以内であれば録音できる。録音するとPCに保存されるのでその後はいつでも聞くことができる。MacではiTunesへ自動的に転送設定ができる。さらにApple Musicのサブスク(個人用は月に約1,000円)を契約していると、スマホにエアで自動的に同期される。しつこいようだがスマホはBluetoothで車中で聴ける。

ラジオのコンテンツは多種多用だ。録音アプリには全国の番組表とNHKの番組名一覧が表示され、選択して録音する。ヒット曲のチャート、オールディーズ、ビートルズ、お笑い、バラエティ、趣味や教養などいろいろある。面白そうなものを録音してアーカイブしているが、教養系はあまり聴かなくなり、娯楽系ばかり聴いている感じだ。聴き方もせわしいが早送りや巻き戻し可能だ。

良さそうな音楽があれば、さらに音楽系のサブスクで検索しダウンロードしてヘビーローテーションしたりするし、お気に入りのパーソナリティーの番組は定期的に録音するなど、いろいろ便利になったネット社会だ。根本的には内容が面白いかお気に入りの音楽があるかということに尽きるが。

ダイバーシティが叫ばれる現在、いろいろな番組が作られていると思います。皆様もいろいろなラジオコンテンツを楽しむことができればと思います。

趣味が仕事に役立つとき

北海道大学医師会
北海道大学 保健科学研究院 医用生体理工学分野

かとうち えつく
加藤千恵次

私は現在、北大医学部保健学科で授業を受持ちながら北大病院の外来診療、札幌市内のPET/CT読影、RI検査遠隔診断などを行っています。本業は放射線診断専門医、核医学専門医です。保健学科は看護師、放射線技師、検査技師、理学、作業療法士の5専攻あり授業数が多いのに教員数が足りません。教員数は文科省で減らされ、履修科目数は厚労省で増やされ、専門と関係ない授業負担が増えます。私は放射線技師教育の放射線医学関連授業は行いますが放射線法規や撮影装置の授業も引受けてます。しかし臨床検査技師の医用工学の講義と実習を頼まれた時は、なんで?と思いました。教務事務は「先生は北大入学前に名大での電磁気学と電気回路学の単位修得を確認したので書類上大丈夫です」。大丈夫の判断基準は私の意志でなく書類でした。私は名大工学部で放射線工学、電子工学を勉強してました。工学が嫌で医学部に来たのでなく、名古屋で予備校講師バイトを3年続けたら受験技術が向上し、別天地の北大でも受けてみるかと試したら合格し工学部は3年次で中退しましたが、学んだ放射線の知識と資格が放射線科医を選ぶ契機になりました。放射線装置の学習は医学部ではしませんが、工学部でCT断層撮像原理を学び感動しました。工学部で得たプログラミングは今では趣味で、CT画像ができる過程をシミュレーションするプログラムを授業で見せ自慢しています。また工学部で得た増幅器作成技術も今では趣味で、心電図測定器の授業や実習で役立ってます。心電図を読むのは苦手ですが心電計作成は得意な変な医者には、医用工学の授業を押し付けても大丈夫。こんな趣味が仕事に役立ったのは幸運な偶然でしょう。

